

## つながる いのち

書名	著者名	出版社名
ぼくのしんせき	青山友美/作・絵	岩崎書店
ひいおじいちゃんちで写した集合写真。目鼻立ちが何となく似ている親戚たちと小さい時のぼく。家族のつながりが感じられます。		
いわしくん	菅原たくや/[作]	文化出版局
海で泳いでいたいわしが、めぐりめぐって人の体の一部となり生き続ける…。シンプルな絵と言葉で「いのち」を描いた絵本です。		
ほしにむすばれて	谷川俊太郎/文 えびなみつる/絵	文研出版
星空が大好きだったおじいちゃんが残してくれた望遠鏡。星好きは祖父から母、そして孫へ受け継がれていきます。		
なきすぎてはいけない	内田麟太郎/作 たかすかずみ/絵	岩崎書店
“いきているもののしあわせをいのっている” 亡くなった祖父から孫への詩のようなメッセージ。柔らかな絵が切なく温かい。		
うさこちゃんのだいすきなおばあちゃん	ディック・ブルーナ/文・絵 松岡享子/訳	福音館書店
うさこちゃんの大好きなおばあちゃんが、亡くなってしまいました。お別れの儀式を幼い子どもの目で描いています。		
おべんとうさん いただきます	堀川真/作・絵	教育画劇
しゃげ、チーズ、からあげ…おべんとうはたくさんのいのちがつまっている。だからすべてのいのちへ「いただきます」と言おう。		
いのちのカプセル まゆ	新開孝/写真・文	ポプラ社
幼虫がまゆを作る様子、まゆに守られて成長するさなぎの姿がリアル。繰り返す自然の営みを描く写真絵本です。		
えぞまつ うけつがれる いのちの ひみつ	神沢利子/文 吉田勝彦 /絵 有澤浩/監修	福音館書店
年とった木が倒れ、そこに落ちた種が古い木を肥やしにして育っていく。受け継がれる自然のいのちの尊さを感じます。		

### 〈特に高学年から読んでほしい本〉

地球はえらい	城雄二/案 香原知志 /文 松岡達英/絵	福音館書店
全てのいのちのみなもと地球。その長い歴史をたどり、地球が生まだし、つなげてきたいのちのことを考えてみませんか？		
いのちつぐ「みとりびと」1 恋(れん)ちゃんのはじめての看取り	國森康弘/写真・文	農山漁村文化協会
大好きだった「おおばあちゃん」の死を少しずつ受け入れていく恋ちゃん。大切な人の「旅立ち」を看取る姿を、写真で伝えたシリーズ。		
さよならエルマおばあさん	大塚敦子/写真・文	小学館
エルマおばあさんが、病気で最後の日を迎えるまでを写真で綴った本。彼女の思いやりが家族の心に生き続けています。		
黒グルミのからのなかに	ミュリエル・マンゴー/文 カルメン・セゴヴィア/絵 ときありえ/訳	西村書店
ポールは母さんを迎えに来た死神を黒グルミに閉じ込めるが…。「死」があつてこそ「生」があることを伝えます。		
ぶた にく	大西暢夫/写真・文	幻冬舎エデュケーション
普段何気なく食べている肉はどのようにして食卓に上るのか。誕生してから肉になるまでの現実が鮮明な写真で語られます。		